

湖西地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました

2015年9月9日

8月24日(月)・25日(火)に、湖西地域方面(高島市)を訪問させていただいた平成27年度夏の宿泊研修には、里親登録学生を含む本学学生15名(医学科14名、看護学科1名)と自治医科大学生1名が参加されました。

24日(月)1日目

滋賀医科大学を出発し、浜大津港近くの大津赤十字病院を左手に見ながら約40キロメートルの道のりを経て、今回の研修の地である高島市内へ向かいました。

① NPO法人元気な仲間訪問

平成27年4月1日にオープンされた、真新しい小規模多機能型居宅介護施設の見学をさせていただきました。

その後場所を変え、NPO法人元気な仲間理事長 谷仙一郎氏から、法人設立の経緯と、高齢化率31.7%の高島市で、行政に任せるばかりではなく、住民同士が支え合い、援助できる人(まかせて会員)と援助を求める人(よろしく会員)という形で、生活での困りごとを会員同士が助け合う相互扶助の取り組みについてお話をいただきました。



② 地域見学(藤樹書院)

中江藤樹の住居跡・講堂跡である藤樹書院を訪問し、江戸の儒学者 中江藤樹の生涯や教えについての説明を聞きました。



③ 高島市民病院訪問

湖西地域の中核病院である高島市民病院を訪問させていただきました。

高山病院長から湖西地域における高島市民病院の概要と役割や、2年後には総合診療科を開設する将来への展望についてお話をいただきました。

その後、院内救急施設、ヘリポートや病棟、また地下にある免震設備などを見学させていただきました。



④ 交流会



夕方は、宿泊先の今津サンブリッジホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、高島市健康福祉部健康推進課 課長 清水 勝徳氏から「高島市の概要と地域医療について」、朽木診療所 所長 倉田 佳彦氏から「地域で学ぶ地域医療～朽木診療所に赴任して～」と題してご講演いただきました。

交流会第2部では、訪問先の関係者の方々や地域の方、里親の方々もご参加いただき、和やかな意見交換、懇談の場となりました。



25日(火)2日目

① 地域見学(朽木溪流魚センター、興聖寺)

あいにくの雨模様の中、朽木溪流魚センターへ向いました。

溪流魚センターは朽木のメインストリートから、脇道を30分ほど入ったところにあります。その先にある高島市民病院平良出張診療所や、その奥の高島市民病院針畑出張診療所への道は、バスでの通行が不可能で、残念ながら訪問することはできませんでしたが、その地域に診察や介護に出向かれる、朽木地域の医療従事者の実情を知る良い機会となりました。

その後、朽木氏の菩提寺である興聖寺を訪問し、住職からお寺の歴史についてのお話を伺いました。



② 高島市国民健康保険朽木診療所訪問

旧朽木村唯一の医療機関である高島市国民健康保険朽木診療所を訪問し、倉田所長の案内で、昨年5月に木造で新築された診療所を見学させていただきました。

医師1名、看護師2名、事務員2名の診療所では、看護師や事務の方の役割が大きいこと、全ての医療機器の操作は医師が行っていること、診察ではインターネット回線を用いて、総合病院での検査結果などの診療情報を診療所で閲覧できる「びわ湖メディカルネット」の利用や、県医師会の在宅療養システム「淡海あさがおネット」などを利用している等のお話をきかせていただきました。



今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力いただきました皆様方に厚

7月15日に「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました

7月15日(水)午後6時から滋賀医科大学教職員ホールにおいて「第5回卒業後の自分を考える連続自主講座」を開催しました。

講師には、角野文彦先生(滋賀県健康医療福祉部 次長、医師・滋賀医科大学医学科6期生、里親)と、糸山めぐみ先生(訪問看護ステーションオリーブ 所長、看護師)をお招きし、滋賀県の保健医療政策に関わっておられる角野先生から、行政医師の仕事とやりがいについて、また、昨年 近江八幡市に訪問看護ステーションオリーブを開設された糸山先生には、在宅医療(高齢者だけでなく精神、障害児者も含めた)における訪問看護師としての苦労とやりがいについてお話をいただきました。

あいにく試験前のために学生3名の参加となりましたが、両講師を囲んで和気あいあいとした中で、本音を話し合える会となりました。

ご多忙の中、滋賀医科大学までお越しいただきました角野先生、糸山先生有難うございました。



○医学科3年生

県レベルでの医療行政のお話など、普段聞けないしあまり知らないことについてたくさん聞いて、とても貴重な体験になりました。

実際の医療現場におられる糸山さんと、行政の立場から医療環境をつくる角野先生と、大学で研究、教育の立場から大局的に医療を分析する埜田先生の三人が、それぞれの立場からお互いを尊重しつつ、良い医療をつくるための輪を生み出している印象を受け、医療に直接的に携わる以外の方法でも、人の健康を守り高めることができるのだなと感じさせられました。

○医学科2年生

保健所に勤めておられる先生のお話ということで、どのようなこととお話し頂けるのかと期待を持って参加しました。お話し頂いた内容は、まるで戦国時代の軍師のような仕事ばかりで、お話を伺っていて大変面白いものでした。

○看護学科4年生

- ・イメージしにくい行政における医師の役割がよくわかりました。
- ・地域の病院再編などにも関わっておられることを、初めて知りました。